連石 武則（つれいし たけのり）

水曜会（70分）

本市の地域振興は

問 ①内海町等の民泊事業など、地域に根付いた仕組みを将来に向け継続するためには行政の下支えが必要と考えるが。

②ふくやまサイクリングロード「しおまち海道」について、ただ通過するのではなく伝統・歴史的建物等に立ち寄る仕組みなどを通じて人々の流れができれば地域振興にもつながると感じるが。

答 ①4年ぶりに再開した今年度は6校307名を受け入れた。受け入れ家庭は再開当初30家庭であったが5家庭が新規登録し改善の兆しが見えつつある。今後も継続的な事業運営への支援を行いたいと考える。

②昨年度から尾道や倉敷と連携してサイクリングで観光名所などを巡るサイクルラリーを実施し、2回の開催で1354名が参加した。引き続き、サイクリングロードの活用を通じて地域のさまざまな資源に触れる機会を創出し、地域振興にもつなげていく。

喜田 紘平（きだ こうへい）

水曜会（60分）

子どもの見守り体制は

問 複数の自治体が導入を進めているICTを活用した子どもの登下校見守りサービスの導入は。また、そのサービスが構築できれば高齢者の見守りなどにも活用が可能となり、より安心・安全なまちづくりにつながるが、本市の考えは。

答 ICTを活用したものを含め社会全体でより安全の確保を図る必要があると考える。不審者が出た際は引き続き教職員が巡回し下校指導するなど安全確保に努める。高齢者の見守りについては地域での見守り活動の周知啓発に努めるとともにICTを活用した効果的な仕組みづくりを検討する。

放課後児童クラブの開設時間は

問 市内全クラブの開設時間の延長は。

答 今後については人員確保に取り組みながら開設時間の延長クラブを拡大していく考えである。

木村 素子（きむら もとこ）

水曜会（70分）

子どもや若者への支援施策は

問 ①公的な居場所支援として本庁舎東棟にふらっとスペース「YuRuRi～ゆるり～」を設けているが、活用の現状と課題は。

②民間の居場所支援の実態と在り方は。

答 ①学校の宿題や資格取得のための勉強などの場として利用されている。利用者が固定していることから、引き続き周知に努めるとともに、利用者や若者の意見を聞きながら、利用環境を改善していく。

②不登校などの問題を抱える若者の居場所のほか、学習やコミュニケーションの場など多様な居場所が運営されている。行政が運営する居場所も含め、ニーズに応じた居場所の選択により必要な支援につなげることができる。そのため、ふくやま・ヤングサポートネットワークを立ち上げ、それぞれの取り組み状況の共有とともに、効果的な情報発信や連携の仕組みの検討を進めている。

若者の居場所「YuRuRi」